

走り続けた4年間

FD委員会事務局より

首都大学東京管理部教務課・教務課長
加藤 洋子

1. 泥縄からの始まり

89の国立大学法人が平成16年4月1日に発足した翌17年の4月1日、首都大学東京は公立大学法人としてスタートした。同年4月4日、南大沢キャンパスでは新1年生1630人の英語クラス分け編成テストが行われ、基礎教育センター教務課では都立大学時代より2倍に膨らんだ新生をインフォメーションギャラリーに並ばせて学生証等の交付を行っていた。4月11日、授業開始日の教務課窓口では、教室の場所や履修方法を尋ねる1年生の行列と、新しく建てられた6号館のマイク等の仕様を尋ねる先生方への対応で戦場のような有様だった。

そのような状況の最中に、上野基礎教育センター長から授業評価を前期から行いたいのだがと尋ねられた。事務局である教務課としてはノウハウも人員も持たず、実に途方に暮れてしまったのである。しかし、5月11日の履修登録確認日を過ぎると、それまで朝から晩までほとんど窓口立ちっぱなしであった職員も自席に着けるようになり、学生にも先生方にも少しばかりの落ち着きが見えてきた。そのため、前期に授業評価を行いたいとするセンター長の意向を受け事務局は泥縄の有様ではあったがその実現に向けて検討を開始した。

5月26日、第1回FD委員会が開催された。本学の組織的なFD活動の始まりであった。

2. 高等教育改革の速い流れ

さて、首都大学東京の開学は大きな高等教育改革の流れの中にあつた。「18歳人口が減少する中、大学・短期大学の収容力（入学者÷志願者数）は2007年には100%に達するものと予測される」という「大学全入時代」の文部科学省推計は、中央教育審議会の①「我が国の高等教育の将来像」答申（平成17年1月）で発表された。この答申は、平成13年4月に中央教育審議会が文部科学大臣から「今後の高等教育改革の推進方策について」の諮問を受けたものである。さらに、平成17年9月の②「新時代の大学院教育―国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて」答申、そして、平成20年12月の③「学士課程教育の構築に向けて」答申が、この諮問に対する3部作といわれている。

開学から4年間の間、これらの答申の提言に細かく目を

通す暇もないうちに、文部科学省からは答申を反映させた大学設置基準等の改正通知が「遺漏なきように」と送付されてくるのである。例えば①の答申には「高等教育の質の保証を考える上で評価とFDやSDへの取組が重要な課題である」と記されていた。このことを受け、平成19年7月に、大学設置基準改正通知は「組織的な研修及び研究の実施に努めなければならない」（大学設置基準第25条の2）というFDの努力義務を、「組織的な研修及び研究を実施するものとする」と（大学設置基準第25条の3）と義務化した。さらに大学院FDについては、②の答申の第2章に「今後の大学院教育の組織的な展開が有効に機能するよう・・・組織的な研究・研修（FD）の実施が必要である」と提言された。これに呼応して、1年も経過しない平成18年5月、大学院設置基準は改正され大学院FDを義務化した（第14条の3）。③の答申に呼応した設置基準等の改正はまた追って通知されよう。FDの義務化に大学人が疑問を挟む暇もないほど高等教育改革の流れは速いのである。

3. 走り続けた4年間のセミナー

では走り続けた4年間のFDセミナー等のメイン企画を顧みたい。

第1回セミナー「FDの目指すもの」（17.10.6）

松岡信之 国際基督教大学教授

第1回講演会「全入時代の大学教育」（17.11.4）

田中義郎 桜美林大学教授

第2回セミナー「首都大学東京の基礎教養教育」（18.2.23）

本学教員

第3回セミナー「授業能力の向上のために」（18.10.5）

田中每実 京都大学高等教育研究開発推進センター教授

第2回講演会「現代社会と教養教育」（18.11.30）

村上陽一郎 国際基督教大学大学院教授

第4回セミナー「最近の学生の意識」（19.2.23）

岡 昌之 学生相談課長・教授

第5回セミナー「大学院FDと大学院教育改革」（19.10.4）

井上卓己 文部科省高等教育局大学振興課大学改革推進室長

第6回セミナー「成績評価の共通指針」（20.2.22）

大川一毅 岩手大学評価室準教授

第7回セミナー「近年の改革動向－『学士力』を中心に」
(20.10.2)

川島太津夫 神戸大学 大学教育推進機構教授

第8回セミナー「認証評価のめざすもの」(21.2.20)

川口昭彦 大学評価・学位授与機構理事

以上である。

講師の先生方は突然の依頼にもかかわらず「首都大学東京のFD」ということで皆快く了解して下さった。ここに再度お礼を申し上げたい。また、これらセミナー等の運営は、FD委員の先生方により毎回手際よく行われていた。

さて、開学当初のFD「専任スタッフ」は上野基礎教育センター長と教務課職員だけであったが、開学3年目の平成19年4月、広島大学から評価の研究者である串本剛助教をお迎えし、教務課は一安心できることとなった。FDの意味すら知らなかった事務局がにわか勉強で走り始めて4年が過ぎようとしているが、FDの義務化はこの走りをどこまで加速させようとするのだろうか。

なお、平成20年度におけるFD委員会の1年間の活動は今後の予定も含めて次のとおりである。

FD委員会の活動記録（平成20年度）

4月24日 第1回FD委員会

- ・19年度授業評価をうけた授業の改善状況調査報告
- ・19年度後期授業評価自由記述のまとめ報告
- ・各部局FD委員会報告
- ・委員会の3部編成について
- ・本年度のスケジュール（事業・予算計画）について

5月22日 第2回FD委員会

- ・宿泊FD・SDセミナー要領・役割分担報告
- ・20年度授業評価調査票（SE・TE）の報告
- ・20年度予算配分報告
- ・各部局FD委員会報告
- ・授業評価結果の取り扱い（冒頭依頼文変更）について

5月29日～5月30日 FD・SD宿泊セミナー

（八王子セミナーハウス）

- ①講演：「大学教育の今日的課題－共通教育の必要性」
講師：絹川正吉国際基督教大学名誉教授・元学長
- ②講演：「大学教育の課題－質保障システム」
講師：串本剛助教、飯村学教育支援係長
- ③講演：「首都大学東京の3年間」
講師：大橋教務委員長、宮台都市プロ部会長、
小林基礎ゼミ部会長、福島英語分科会座長、
永井情報教育部会長

④講演：「大学教育の課題－今日の学生気質」

講師：岡相談課長

6月26日 第3回FD委員会

- ・20年度SE・TEの実施方法報告
- ・FD・SD宿泊セミナー実施報告
- ・大学教育学会報告
- ・各部局FD委員会報告
- ・FDレポート第6号自由記述一部掲載報告
- ・FDレポート第7号の目次案について
- ・20年度第1回FDセミナーについて
- ・授業評価結果の取り扱いについて（継続）

7月7日～7月22 授業評価アンケート調査

（都市教養プログラム、基礎ゼミナール、実践英語、
情報リテラシー、理工系共通基礎科目）

7月24日 第4回FD委員会

- ・20年度SE・TEの実施状況報告
- ・各部局FD委員会報告
- ・FDレポート第7号について（継続）
- ・20年度第1回FDセミナーについて（継続）
- ・授業評価結果の取り扱いについて（継続）

9月25日 第5回FD委員会

- ・FDレポート第7号の発行報告
- ・20年度前期SE・TEの結果報告
- ・各部局FD委員会報告
- ・20年度第1回FDセミナーについて（継続）
- ・後期SE・TEの実施科目及び実施計画について
- ・授業評価アンケートの取扱いについて（継続）
- ・大学教育学会（岡山大学12/6～7）への参加

10月2日 「第7回FDセミナー」

テーマ：「学士課程教育」の学習成果を考える

①講演：「近年の改革動向－『学士力』を中心に」

講師：神戸大学 川嶋太津夫 教授

②報告：「首都大学東京の共通教育」

報告者：保阪基礎教育部会長

10月23日 第6回FD委員会

- ・第7回FDセミナー報告
- ・後期SE・TEスケジュール報告
- ・各部局FD委員会報告
- ・平成20年度第2回FDセミナー企画について
- ・授業評価アンケート取扱について（継続）
- ・後期SE・TEのアンケート用紙について
- ・FDレポート7号の原稿について
- ・キャンパス2009の原稿校正について

11月7日 FDレポート第7号発行

11月27日 第7回FD委員会

- ・FDレポート7号発行報告

- ・後期SE・TEの文言修正
- ・各部局FD委員会報告
- ・第8回FDセミナー企画について
- ・FDレポート8号の目次案について
- ・授業評価アンケート取扱について（継続）
- ・平成21年度FD・SD宿泊セミナー日程報告
- ・中央教育審議会大学分科会答申（案）情報

12月17日 第8回FD委員会

- ・「大学教育学会課題研究集会」参加報告
- ・FDセミナーのビデオ記録報告
- ・各部局FD委員会報告
- ・第8回FDセミナー企画について（継続）
- ・FDレポートの執筆要領、執筆依頼の見直しについて
- ・授業評価アンケートの取扱いについて（継続）
- ・授業評価冒頭文言と2次分析の同意確認方法について

12月21日～1月23日 授業評価アンケート調査

（実践英語Ⅱb、都市教養プログラム、理工共通基礎科目）

1月7日～2月1日 授業評価アンケート調査

（情報リテラシーⅡAB）

1月22日 第9回FD委員会

- ・第8回FDセミナーについて
- ・後期授業評価の進捗状況報告
- ・FDレポート8号の各部局FD活動状況調査
- ・授業評価アンケートの取扱いについて（継続）
- ・授業評価冒頭文言と2次分析の同意確認方法について（継続）
- ・次年度申し送り事項の整理依頼
- ・GPAの学内共通認識
- ・京都大学教育研究フォーラム参加

2月20日 第8回FDセミナー

テーマ：「認証評価制度の概要と首都大学東京の取り組み」

①講演：「認証評価がめざすもの」

講師：大学評価・学位授与機構 川口昭彦 理事

②報告：「首都大学東京の認証評価に向けた現状と課題」

報告者：篠原自己点検・評価委員会委員長

2月23日 第10回FD委員会

- ・FDセミナー（2/20）開催報告
- ・各部局FD活動状況調査
- ・平成20年度後期SE・TEの結果報告
- ・各部局FD委員会報告
- ・平成20年度の教育改善点調査について
- ・次年度への申し送り事項の整理依頼

3月18日 第11回FD委員会予定

3月31日 FDレポート8号発行予定

以上、本年度もFD委員会は奮闘している様子である。さらに、審議が長期にわたり継続しているところにも注目していただきたい。全学の合意を求めての継続審議である。建築物を構築するための礎のごとく本学の基盤整備に欠かせない議論であろう。とにかく先生方には楽しく授業改善に取り組んでいただきたいと願っている。そのためにもFD委員会におけるの情報交換は大切である。

さて、日常に改革がなければ成長はないという。教務課の新人職員2名は、いま大学院の科目等履修生として「大学マネジメント」を学び自己研鑽、SDに励んでいる。大学は、時代の変化を速やかに認識し、日常に様々な改革を行っていかねばならない。教務課では窓口から学生の変化を捉え、先生方と協力し合いながら本学の発展に寄与していきたいと考える。